

かみくげ 恐竜の里新聞

平成二年四月二五日

発行：上久下恐竜の里づくり協議会

第12号

上久下
地域づくり
センター
0795 78 0001さくらまつりと
モニュメント除幕式
4月5日にダブルイベント開催

川代さくらまつりは4月5日、天気予報「雨」が一転して好天気に恵まれ、盛大に催されました。

今年で24回目を迎えたイベントには地域内より300人の家族連れらが参加し、各団体、グループのバザーやアトラクションを楽しんでいました。会場には、今や引つ張りだこの人気者「ちーたん」ぬいぐるみが特別参加し、たくさんの子供たちに取り囲まれていました。

さくらまつりに先立って、午前9時から化石発掘現場駐車場においてモニュメントの序幕式が行われ、丹波市副市長はじめ、県民局、人と自然の博物館、自治協議会役員らが参加しました。

丹波市が複数の応募作品から厳選して制作したモニュメントは、連なった恐竜の骨が手をつないでいるように見え、複数のハートの形は命や人の心をイメージさせ、色は地層の赤褐色から赤を基本にして濃淡のある層をつくりだし、周りには発掘現場の砂岩を活用しています。

上久下より発する地域のシンボルと



完成したモニュメント



さくらまつり会場に現れた「ちーたん」

して来訪者にも親しまれることでしょう。デザインを担当した中村哲也氏は主に関東で活躍される著名なデザイナーで、多くの有名施設に作品を残しております。

恐竜列車ちーたん号
丹波路を駆ける

太古のロマンを乗せて恐竜列車ちーたん号が3月28日、早朝の下滝駅を京都に向けて出発しました。サクラの開花間近い丹波路をゆったりと駆け抜け、京都丹波口駅までを8時間かけて往復運行しました。

丹波市が主催し、「JR西日本などが共催した6両編成の特別列車には市内の親子づれなど300人が各駅から次々と乗り込み、車内での落語家による小話や手品などを楽しみました。市島駅ではマスコットキャラクター「ちーたん」や丹波市長らの歓迎を受け、駅のホームには大きな歓声が響き渡りました。始発駅、下滝駅では出発を待つ「ちーたん号」のエンブレムをつけたディーゼル機関車を写真に収めようと、早朝にもかかわらず、遠く阪神間から鉄道マニアが押し寄せ、線路の両側を取り囲んでいました。

この企画に参加した地元の子どもたちは声をそろえて「恐竜が見つかって、こんなイベントに参加できてよかった。車内ではいろんなアトラクションもあって楽しかった。次に企画があればまた参加したい」とはしゃいでいました。



下滝駅で出発を待つ「ちーたん号」



市島駅での歓迎セレモニー

大型観光キャンペーンはじまる
4月から6月末までの土・日・祭日

「あいたい兵庫デスティネーション（目的地・行き先の意）キャンペーン」事業がはじまり、かみくげ恐竜の里では「丹波竜の里化石発掘体験ツアー」と題してバスツアーが運行されています。

バスで柏原駅を起点に山南化石工房から慧日寺（えにちじ）を経て上久下地域づくりセンターで化石発掘体験をし、発掘現場を周遊するコースで、午前と午後の2回出発。それぞれ定員は40名です。

ほとんどが阪神間からJRを利用しての親子づれで、はじめて訪れる桜や新緑に包まれた丹波竜の里を満喫しています。特に、子どもたちは化石発掘体験や発掘現場見学に強い関心があり、地域づくりセンターでの「化石発掘体験」には慣れないハンマーを使って懸命に探していました。

運よく、立派な恐竜の骨片を見つけた大阪泉佐野市から参加した親子連れは「丹波竜化石の発見されたところで、同じ恐竜の骨片を見つけれられてうれしい。今度は家族だけでもう一度来たい」と感想を話していました。



化石発掘体験をする家族づれ

われらが里の元気人 見つけた！ 8

中島美知子さん
(八八歳・青田)



中島さんは大正一〇年生まれの88歳で、今はひとりでお家で住んでおられます。ご主人とは25年前に死別し、2人の子供さんは宝塚と神戸で生活され、男のお孫さん2人は立派に成人されています。農業に経験のなかった中島さんは、頑張って菊やカーネーション、ゆりなどの花づくりをされたこともあり、今は、わずかの菜園で野菜づくりを楽しんでおられます。多くの田んぼは隣人に頼んで耕してもらっているそうです。

中島さんは趣味の多彩な方で、句会にも入っておられたり、編み物は今も毎日されており、最近までは手芸を習いに大阪・茨木市の、以前関西電力に勤めていた頃の知人のところで腕を磨いておられました。

完成した作品は多種にわたり、そのほとんどは子供さんや知人にプレゼントしています。一部代表的な作品は家に飾っておられ、記者に示された作品の数々にも細かい技法が施されていました。

話が好んで働くことの好きな中島さんは73歳まで地域づくりセンター隣の八尾電機で働いていました。宝塚に住む長男夫婦に同居を勧められましたが、慣れた今の家がいいと断り、毎週末に帰って家事を手伝ってくれることを喜んでおられました。

取材を終えて引き上げる記者に大切な作品のひとつ、花と扇子の「押し絵」をいただきました。取材へのご協力と共に、ありがとうございました。

5月の予定

- ◆5月2日(土) 午前10時〜 第3次発掘調査報告会 地域づくりセンター 多目的ホール
- ◆5月4〜5日 午前9時〜 スタンプラリーインかみくげ 上久下地内にて くわしくはホームページでも紹介しています。
- ◆5月9日(土) 午後1時〜 上久下スポーツ21総会 小学校
- ◆5月16日(土) 午後7時30分 恐竜の里づくり協議会 地域づくりセンター

自治会 春の催し紹介 太田自治会・上滝自治会

(太田) 桜まつり・愛宕山公園

4月11日 汗ばむ春の日差しの中、太田自治会のみなさんは満開のさくらの木の下で、歌にお酒や食事を仲間や家族で楽しんでいました。今年で8年目となる春の恒例行事、「さくらまつり」には自治会内より170名ほどが参加して婦人会などが用意したおでんやおにぎり、フライものなどを口に運びながら話に花をさかせていました。次々と流れてくるカラオケの歌声に太田自治会のみなさんの「和と活力」の源を見たように思いました。



(上滝) 恐竜の供養齋会・説宗寺

29日(日) 説宗寺(龍魂寺)

において丹波竜化石供養齋会が催され、上滝自治会の皆さんが参加して法要・祈願をおこないました。本堂には「人と自然の博物館」より借り受けた3次発掘調査までの記録写真展、恐竜にちなんだ俳句展、ぜんざいの



振る舞いや、境内ではテレビ朝日で報道ずみの「恐竜の尻尾」展示と化石発掘体験が行われ、地区のみなさんの多くが参加して、過去、現在、未来のいのち(生命)の尊厳と感謝の意を表していました。

リニューアルしたこばと保育園 地域の新しい拠点に

37年の歴史に幕を下ろして、今年3月末で惜しまれつつ閉園となった「こばと保育園」は、園舎の部分を解体し、遊戯室のみを残して「小鳩の森」と看板も新たに地域自治協議会の多目的利活用の場として再スタートすることになりました。

新しい施設の名前は、小学校の子どもたちからの提案を採用し、学外の美術の先生に依頼して桜の木に書いていただきました。開所式は4月25日(土)に地域の代表者と学校関係者で行い、地域の人にも開放していきます。上久下同窓会長の村上正昭さんは「夏休みには森の動物たちをテーマに木工クラフトづくりなどをしたい。

また、広く地域の人たちにも活用してほしい」と話していました。

